３つの定例活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１日曜日

知足の森

第１日曜日

相模湖・嵐山の森

第３日曜日

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.440-441

受験生が復帰したフルメンバーの地球環境部

【定例活動報告】小原本陣の森

３月５日の作業は、従来は森の入口から10分ほど林道を登ったところの基地周辺での作業であったが、最近は基地の入口付近や、小原の他の地区での作業が中心となったので、基地を移すことになり、使わなくなった倉庫は撤去することになった。2月5日に倉庫内を片付け、3月１日に道具類を搬出し、倉庫周辺を片づけた。今回、倉庫本体の解体作業を行ったので報告する。安全作業の為に、屋根はそのままの状態で四本柱とともに倒し、地上で解体することにした。まず、入口の扉と壁の窓を取り外した。側面壁の解体は、柱の蟻溝に嵌め込まれた壁板を、側壁ごとに4側壁取り外した。柱の蟻溝をチェーンソーで切断除去加工してから羽目板を内側

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

に取外した。屋根が四方柱のみで支えられた状態で倉庫を倒壊させ、屋根を着地させた。屋根上を清掃し屋根仕舞を確認した。屋根はスレート葺きで、スレートを止めている釘を引き抜き、１枚づつ剥離除去した。３月5日の作業は、ここまでとした。次回は、屋根板の解体と材木の搬出作業をする予定。（川田浩、本会副代表理事）

沢沿いの間伐を進める地球環境部

【定例活動報告】知足の森

３月５日の知足の森では長福寺、野呂さんから依頼されていた沢沿いの作業を進めています。前回までで勢力をふるっていた竹を一通り刈ってしまっていたので、今回は中学生、高校生でも自力で間伐できるようなスギ、ヒノキを作業しました。受験が終わった３年生が多く参加してくれたので、２０名近くを３つに分け、順番に作業して行きました。受け口をつくり、大人が確認をして追い口を入れて倒す、倒した木を駐車場まで引き上げ玉切りにして整理する。花粉もまさにトップシーズンでマスクに保護メガネにフル装備の生徒も多かったです。スギを倒すと黄色い粉がぶわっと広がって、それを見ただけでも体中かゆくなるような活動日でしたが、そんなことにもめげずに計６本の間伐を無事に終えました。３年生はこれまでの活動の集大成だったと言える手際のいい、見事な仕事をしてくれました。来月から高校生として、どんな新入生の指導をしてくれるか今から楽しみです。（宮村連理、本会副代表理事）

【定例活動報告】相模湖・嵐山の森

３月１９日の森林整備班と木工斑の活動報告から。今日は麗らかな春の陽気を思わせる気候の中で始まった。セブンイレブン記念財団の松井事務局次長とスタッフで高尾の森自然学校の三瓶氏が朝礼でご挨拶された。緑のダム参加者は今までで一番少ないのではないかと思った。20人くらいの参加者であった。午前中は林内で水源を含め偵察に回る、水源の水が全く枯れていることが気になり、獣道を含む中で水流に変化が起こった可能性を探った。水源周辺の雑木の処理などを行い水路を確保した。木工班のほうでもう一本の棟上げを手伝ってほしいとの要望があり、ノバ、セブンイレブン、にもお手伝い頂き棟上げを完了した。昼食中は、セブンイレブン記念財団の松井、三瓶両氏と20分ほど話が出来た。ウッドバンクで木製容器を作る計画を話すと大変興味を示され是非お手伝いをしたいとの強い言葉を頂いた。セブンでも弁当容器の木製化は初めているところで試作は行っている。緑のダムはNPOだが、その会員をコアにした事業展開ができることを他のNPO団体の方たちに訴え、頑張ってもらいたいと伝えていただきたい。そんな話をさせて頂いた。午後からは、嵐山集会場の元炭焼き小屋の躯体の柱が腐って倒れて怪我人が出る前に解体したいとの以前からの要望を実行した。以外に簡単に解体出来たので、丸太を並べ休憩場所に仕上げた。今日は、カブトムシの幼虫を取りに来られた団体があったが、どの牧場にもカブトムシの幼虫は存在しなかった事件があった。クヌギの葉だけではだめで、発酵させる要素が必要で石灰などを葉になじませておくのが良い。斎藤氏に指導いただいてカブトムシ牧場を作った年は相当の幼虫が育った。相模原市のさくら祭りの準備として丸太切り競争に使う丸太2mを3本確保した。（小林照夫、本会理事）

春を感じる嵐山の森

各々の作業が進んでいます

Forest　Nova☆ は、宮村先生がお休みだったので地球環境部の中学生たちと活動を行いました。今回は、ノバの新入生を入れるためのオリエンで使う炭作りとカブトムシ牧場の整備、木工作品用に木材の準備を行いました。炭には桜の木を使いました。炭として焼いたときにほんのりいい香りがするからだそうです。正直、うまくできるとは思っておらず、最悪なしの方向で行くつもりだったのですが、短時間でうまくできたので本当にうれしかったです。ちなみにオリエンでは焼き芋を作るつもりです。おいしく作れるといいのですが・・・。カブトムシ牧場では、落ち葉だけで土がなかったので土を追

加しました。また土をかき混ぜて下の方にも腐葉土ができるようにしたのですが、その時カブトムシの幼虫が１匹もいないということが判明しました。その後来た子供たちが必死に探したのですが、結局見つからず子供たちに申し訳なかったです。カブトムシが来年はいっぱいいるような牧場を目指したいです。また、それに合わせてもう少し暖かくなったら、生態調査をやってみたいと思いました。今、嵐山にはどんな生物がどれぐらいいるのかを知ってみたいと強く感じました。木工作品の方は、年輪がきれいな木を使いました。オリエンでは年輪を通して森の魅力を語る予定でいます。新入生には森の魅力を感じそのままの気持ちで嵐山に来てもらいたいです！また、さくら祭りのお箸も少し作りました。中学生たちが丁寧に細く切ってくれてとても助かりました。また、中学生たちと共に作業していく中で、今まであまり話をしたことがなかった中学生たちのことを少し知られたような気します。昼頃には木工班のお手伝いをさせていただきました。木工班で作っている木材の乾燥小屋が着々と出来上がっているのを見て、時間の流れの早さを改めて感じました。（五味輝史、Forest Nova）

お花畑班は連休・卒業等のシーズンからか参加者が少なく、花畑班も3人。基地から見えた花畑の淡い紫色のクロッカスの群生が息をのむほど美しかった。作業内容はスイセン、チューリップ、ムスカリなどの球根が植えてある花畑の周囲に前回からの竹の生垣づくりを3人で始める。今回は道路面からの修景を考え、半割りの竹を前面に被せる作業と高さを揃える作業を主に行った。4つ目垣で使用する格好いい「男結び」にチャレンジしつつも断念。瀧澤さんがいたので女結びでごまかした。次回の石原さんに期待しようと言う事になった。午後からは、淵上さんの娘さん親子とその仲間総勢15人程が青根キャンプ場から来訪。カブトムシの幼虫を欲しいとの事で、基地内の「カブトムシ牧場」3箇所の腐葉土を花畑班他が手伝い、期待に心躍らせつつ掘ったが1匹もいなかった。毎年持ち切れない程取れたのに、面目まるつぶれであった。「モグラに食べられちゃったのかなー」とぼやく。キャンプ場で使う焚き木が欲しいと言う事で、梅の剪定木を持っていっていただいた。お詫びに？子供たちに、「かどや」自慢のカレー味のシチュウを振舞った。いつもは野菜を食べないのにたくさん食べていた子供たちにお母さんたちが驚いていた。（丸茂喬、本会理事）

ForestNova☆五味が編集させて頂きました。今月の活動では、皆さんカブトムシ牧場に幼虫がいなくてがっかりされたと思います。ForestNova☆の管理不届きによるものです。お詫び申し上げます。今後、改善に努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

【若者の森づくり】Forest Class

3月5日は初参加者2名を含む4名で活動スタート。途中で人数が出たり入ったりして総参加は6名となりました。初参加の方と一緒に間伐の手順をおさらいしながら進めることができました。メンバーの林業家齊藤さんの丁寧な指導が光りました。今回は危険予知の重要性と間伐の手順について初参加者の感想と一緒に報告します。

≪危険予知≫慣れない私たちが作業を行う時に危険予知に対する意識は常に高く持っていなければなりません。チェーンソーの刃から身を守るチャップスの着用。これは足元の事故が多いチェーンソーを扱うにはなくてはならないものです。チャップスは繊維状になっているのでチェーンソーの刃が当たると絡まりとまるようになっています。次にヘルメット。伐倒の際に上から枝やつるが落下していくることがあり、身を守ります。また、長時間チェーンソーを使用する場合は耳やファイスガードも必要です。チェーンソー起動の際に仕組みの説明も齊藤さんからいただきました。[1]ブレーキの確認、[2]スロットル、アクセルの確認、[3]ガードの確認等。木の伐倒に入っていきます。

[1]方向決めは斜面に対して横に倒すのが通常で、木の通り道を定めます。[2]まわりの安全確保のため、足元の障害物をなくします。[3]受け口の角度は水平に切れ込み、次に45度を目指して落とします。[4]追い口は退避する方向に自分を置き、受け口の3分の2の高さでゆっくりチェーンソーを入れていきます。[5]最後にロープなどを活用して、最後は一気に伐らずに全員で方向を確認しながら進めていきます。

以上のように齊藤さんの指導、午後から同じく林業家の二藤さんの指導により本日も安全に作業を行うことができました。午後には永井雅夫さんにも現場を見ていただききれいになったとお褒めの言葉をいただきました。4月からは新フィールドの整備にあたっていきたいと思います。

≪初参加者の感想≫

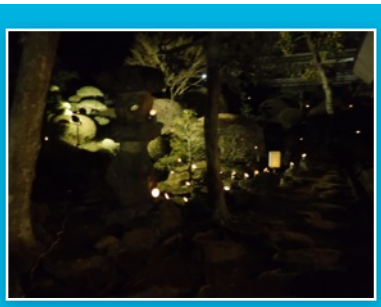
ここ一年で、山仕事に興味を持ちました。昨年12月からForesTo Class の齊藤さん、二藤さんと作業道講習をご一緒させていただき、話しに聞いていた学生時代からお二人がかかわっている山を見てみたかったからです。齊藤さん、二藤さんが本格的に木を伐るのを見るのが初めてだったのですが、さすがプロ、無駄のない動きで、経験も知識も豊富で、感服しました。それと、滝澤さんの進行で、安全に円滑に活動できていてとても良いと思いました。チェーンソーを使うときにはチャップスを着けるなど、安全についての意識が高いのもよかったです。山主さんたちとの関係も良好で、信頼されているのだな、と感じられました。（後藤さん、東京）以前から林業や山に携わる仕事に関心があり、1月頃に知人から当ボランティ

アのことを教えてもらい、試しに参加してみようと思いました。当日は萩山で間伐作業のお手伝いをさせていただきました。山での作業は楽しかったです。また、この日の活動を通して運営している方々から色々なお話しを聴くことができ、有意義な一日となりました。また機会があったら参加したいと思いました。ありがとうございました。（福池さん、東京）

【若者の森づくり】Forest Nova

私にとって11月の本陣祭から2回目の小原のイベントである小原宿ライトアップに参加してきました。まず当日の朝に集合して竹灯篭につかう竹を加工しました。小原でつかう竹灯籠は、竹の上部を斜めに、下部を水平に切って作ったかぐや姫が入っていそうな形のもので、中にろうそくを入れて火をともします。より多くの竹灯籠を用意するために、節の部分で切った底のあるものと、底のないものを用意しました。昼過ぎに作業が終わったので、小原本陣の周りや小原の郷から本陣の門までの歩道沿いに完成した竹灯籠を並べました。夕方になって日が落ちてくると、いよいよライトアップ本番です。竹灯籠の中に入れたろうそくに一つずつ火をともしていきます。火をつけているときはまだ少し明るかったのでろうそくの明かりが目立たず、こんなに小さいろうそくで大丈夫なのか？と心配していましたが、夜になるとしっかり本陣を照らしていたので安心しました。今年は例年に比べて寒かったということで、いただいた豚汁とうどんが一層おいしく感じました。竹灯籠とライトに照らされた幻想的な本陣を見ながら和太鼓や琴、二胡などの演奏を聴けて、夜は私たちも自由に楽しめたイベントでした。4月から新入生が入ってくると思うので、先輩として小原と関わる楽しさを伝えていきたいです。

服部七星（Forest Nova）



NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636

支援団体：セブン-イレブン記念財団、２２世紀やま・もり再生ネット
賛助団体：北都留森林組合、（株）トレカーサ工事、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。